

平成26年度における宮城県公立学校のいじめ^{※1}・不登校・高校中退に係る状況

この資料に掲載した数値は、平成26年度における本県の公立の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校のいじめ、不登校、高校中退の状況を本会議のために県独自で集計したものである。

1 調査対象期間

平成26年4月1日～平成27年3月31日

2 調査対象（仙台市を含む公立小・中学校・高等学校及び中等教育学校在籍児童生徒 H26.5.1現在）

- 小学校 404校(児童数 119,545人)
- 中学校 208校(生徒数 62,925人)
- 高等学校 88校(生徒数 44,849人)
- 特別支援学校 22校(児童生徒数 2,400人)

3 調査結果の概要

(1) いじめ

① いじめ認知件数・解消率・認知校数

- 小学校、中学校で認知件数^{※2}が増加し、高等学校及び特別支援学校で減少した。
- 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校、全ての校種で認知校数が増加した。
- 小学校、中学校、特別支援学校で解消率^{※3}が高くなった（98%以上）。

【校種別】

種別	小学校		
	H26	H25	前年度比較
認知件数(件)	14,505	14,466	+39
解消率(%)	99.7	99.3	+0.4
認知校数(校)	260	239	+21

種別	中学校		
	H26	H25	前年度比較
認知件数(件)	2,793	2,732	+61
解消率(%)	98.9	95.6	+3.3
認知校数(校)	162	156	+6

種別	高等学校		
	H26	H25	前年度比較
認知件数(件)	229	277	-48
解消率(%)	92.6	95.3	-2.7
認知校数(校)	58	53	+5

種別	特別支援学校		
	H26	H25	前年度比較
認知件数(件)	4	8	-4
解消率(%)	100	75.0	+25.0
認知校数(校)	3	2	+1

※1 いじめ：「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているもの。」（いじめ防止対策推進法（以下「法」という。）第2条）

※2 認知件数：学校が法2条に基づいていじめと認知した件数。

※3 解消率：認知件数のうち、平成27年3月31日時点において、「解消しているもの」の件数及び「一定の解消が図られたが継続支援中のもの」の件数の割合。

②いじめの態様

- 全ての校種で「冷やかしやからかい等」が最も多く、小学校・中学校では、「軽くぶつかられたり、叩かれたり等」、高等学校・特別支援学校では「仲間はずれ、集団による無視」が次に多かった。
- 「パソコンや携帯電話等で誹謗中傷」が中学校で4番目、高等学校では3番目に多かった。

【校種別】

(小学校)

(複数回答・上位5件)

	種別	H26		H25		前年度比較	
		(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
1	冷やかしやからかい等	7,878	54.3	6,869	47.5	+1,009	+6.8
2	軽くぶつかられたり、叩かれたり等	4,608	31.8	4,683	32.4	-75	-0.6
3	仲間はずれ、集団による無視	3,749	25.8	4,031	27.9	-282	-2.1
4	金品をかくされたり壊されたり等	2,039	14.1	2,203	15.2	-164	-1.1
5	嫌なことや恥ずかしいこと等	1,411	9.7	1,658	11.5	-247	-1.8

(中学校)

(複数回答・上位5件)

	種別	H26		H25		前年度比較	
		(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
1	冷やかしやからかい等	1,974	70.7	1,898	69.5	+76	+1.2
2	軽くぶつかられたり、叩かれたり等	563	20.2	674	24.7	-111	-4.5
3	仲間はずれ、集団による無視	526	18.8	639	23.4	-113	-4.6
4	パソコンや携帯電話等で誹謗中傷	246	8.8	201	7.4	+45	+1.4
5	嫌なことや恥ずかしいこと等	137	4.9	153	5.6	-16	-0.7

(高等学校)

(複数回答・上位5件)

	種別	H26		H25		前年度比較	
		(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
1	冷やかしやからかい等	130	56.8	155	56.0	-25	+0.8
2	仲間はずれ、集団による無視	38	16.6	61	22.0	-23	-5.4
3	パソコンや携帯電話等で誹謗中傷	35	15.3	41	14.8	-6	+0.5
4	軽くぶつかられたり、叩かれたり等	19	8.3	34	12.3	-15	-4.0
5	ひどくぶつかられたり、叩かれたり等	11	4.8	24	8.7	-13	-3.9

(特別支援学校)

(複数回答・上位3件)

	種別	H26		H25		前年度比較	
		(件)	(%)	(件)	(%)	(件)	(%)
1	冷やかしやからかい等	3	75.0	3	37.5	±0	+37.5
2	嫌なことや恥ずかしいこと等	1	25.0	2	25.0	-1	±0
	仲間はずれ、集団による無視	1	25.0	1	12.5	±0	+12.5

(2) 不登校

- 小学校・中学校の不登校児童生徒数は増加しているが、高等学校は減少している。
- 小学校の不登校のきっかけは、「不安など情緒的混乱」, 「親子関係をめぐる問題」等が多い。
- 中学校では、「無気力」, 「いじめを除く友人関係をめぐる問題」等が多い。
- 高等学校では、「無気力」, 「不安など情緒的混乱」等が多い。

① 在籍学校数・不登校児童生徒数・不登校出現率・再登校率

種別	校種	小学校			中学校			高等学校		
		H26	H25	前年度比較	H26	H25	前年度比較	H26	H25	前年度比較
在籍学校数(校)		196	188	+8	193	173	+20	83	81	+2
不登校児童生徒数(人)		497	486	+11	2,159	2,035	+124	992	1,047	-55
不登校出現率 ^{※4} (%)		0.42	0.40	+0.02	3.43	3.22	+0.21	2.21	2.31	-0.1
再登校率 ^{※5} (%)	県公立	33.2	39.3	-6.1	30.9	32.0	-1.1	40.1	35.0	+5.1
	全国公立	33.2	32.8	+0.4	31.0	29.8	+1.2	33.4	32.0	+1.4

※4：不登校出現率とは、在籍児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合である。

※5：再登校率とは、不登校児童生徒のうち同一年度内に「指導の結果、登校する又は登校できるようになった児童生徒数の割合」である。

② 不登校のきっかけ

(小学校)

(複数回答・上位5件)

	不登校のきっかけと考えられる状況	H26 (%)	H25 (%)	前年度比較
1	不安など情緒的混乱	19.8	18.1	+1.7
2	親子関係をめぐる問題	16.9	15.5	+1.4
3	無気力	15.5	11.7	+3.8
4	いじめを除く友人関係をめぐる問題	9.1	10.0	-0.9
5	家庭の生活環境の急激な変化	7.6	8.7	-1.1

(中学校)

(複数回答・上位5件)

	不登校のきっかけと考えられる状況	H26 (%)	H25 (%)	前年度比較
1	無気力	19.2	17.6	+1.6
2	いじめを除く友人関係をめぐる問題	15.6	16.2	-0.6
3	不安など情緒的混乱	14.6	11.3	+3.3
4	親子関係をめぐる問題	8.4	9.2	-0.8
5	学業の不振	7.4	8.1	-0.7

(高等学校)

(複数回答・上位5件)

	不登校のきっかけと考えられる状況	H26 (%)	H25 (%)	前年度比較
1	無気力	30.4	30.7	-0.3
2	不安など情緒的混乱	21.5	15.2	+6.3
3	あそび・非行	10.6	8.0	+2.6
4	入学、転編入学、進級時の不適応	7.6	3.5	+4.1
5	いじめを除く友人関係をめぐる問題	7.4	9.9	-2.5

(3) 高等学校中途退学

- 高等学校の中途退学者は前年度に比べ減少している。「進路変更」や「学校生活・学業不適応」を事由とした中途退学者の割合が多い。

① 中途退学者数及び中途退学率

	H26	H25	前年度比較
中途退学者(人)	741	847	-106
中途退学率(%)	1.6	1.8	-0.2

② 事由別中途退学者数の構成比 (%)

	H26	H25	前年度比較
1 進路変更	36.8	28.0	+8.8
2 学校生活・学業不適応	32.5	41.6	-9.1
3 学業不振	6.7	7.2	-0.5